

# 県立多治見病院 緩和ケアチーム通信

発行：県立多治見病院緩和ケアチーム 2018年9月号 vol.90  
文責：大津 陽子 編集：櫻田 亜矢子

こんにちは。緩和ケアチームの大津です。

突然ですが私、実は日記をつけています。他のペンより何だか文字がスラスラと書きやすく、書くことが楽しくなるようなペンを最近見つけました。よって何か書きたくて仕方がないので。そんな成り行きで今年の9月から日記を書き始めました。

飽き性なので日記帳は小さなノートです。私生活は平凡で特に書くことはない為、書く項目を決めました。「今日の出来事」「今日のご飯」「起床・就寝時間」「体重（女子なので）」地味な作業ですが不思議と心が落ち着きます。ペンの書き心地が良いので快感なのです。

その日記を振り返ってみたら「患者さんの髭を剃ったら『いつもいつもありがとう』と言われる」と書いてありました。その時の状況を思い出しました。いつになく穏やかな顔で言ってくれました。私は驚きと照れくささがあって「どうしたの〜急にー」と返してしまいました。本当は嬉しかったのに、自分の気持ちを瞬時に素直に言葉にすることができませんでした。その患者さんとの別れを経験し私も自分の気持ちや「ありがとう」を伝えることができたらなあと思いました。

緩和ケアではコミュニケーションの大切さをいつも謳っています。コミュニケーションとは言語・非言語のやり取りです。相手からメッセージを受けて、自分がどう思ったか伝え、お互いキャッチボールできるように、自分の気持ちを言葉にする事の訓練が必要だと日々感じています。

日記帳に「今日の出来事」に対し「思ったこと」の項目も作ろうと思いました。自分にとって書きやすいペンで自分の気持ちを言葉にできるように、38歳女子、日記帳をつけながら只今猛特訓中です。



## 緩和ケア市民公開講座を開催しました

9月22日にバロー文化ホールにて緩和ケア市民公開講座『いきたび』を開催いたしました。朝は雨が降っていましたが、雨は上がり、晴れ間が見えてきました。多治見市内の小学校の運動会が中止になり、市民公開講座に足を運んでくださった方もみえました。参加人数は、約280名で、たくさんの方に参加していただくことができました。

今年度は、前半に映画上映を行い、後半は講演会と例年にはない形で開催しました。映画監督で講師でもある長谷川ひろ子さんが、夫の在宅での最期をホームビデオで撮影し、それをもとに映画を製作されました。映画の中には、寄り添う子供たちの姿や、臨終後に家族で穏やかに過ごしている様子が写し出されており、死について、在宅医療について深く考えさせられる市民公開講座でした。

